

議案第 77 号

日野町過疎地域持続的発展計画の変更について

日野町過疎地域持続的発展計画を別紙のとおり変更したいので、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第 8 条の規定により、議会の議決を求める。

令和 7 年 12 月 5 日提出

日野町長 裕田 淳一

概 要 書

日野町過疎地域持続的発展計画を変更するため、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第8条の規定により、議会の議決を求める。

○広域基幹林道金持秋縄線の追加

林業の振興において、林業専用道・森林作業道整備や広域基幹林道金持秋縄線の新規開設等を追記し、施業集約化の推進及び生産基盤の強化を図る。

○急傾斜地崩壊対策事業の追加

急傾斜地崩壊対策事業に関する項目を新たに追加し、危険箇所の把握や防災体制の充実など災害に強い地域づくりを推進する。

日野町過疎地域持続的発展計画新旧対照表

変更箇所 (変更後の 計画の 頁、行等)		変更後		変更前	
3. 産業の 振興 (2) その 対策 16 頁	林業の振興は今日の国産材需要の低迷、経営コストの上昇、林業従事者の減少、高齢化等に起因して林業生産活動が全般にわたって停滞し、保育等が適正に実施されていない森林が増加している。このため町、森林組合等の林業事業者、森林所有者等が一体となって計画的に施策の実施を図る。今後は施業集約化への取り組みのなかで、施業基盤となる林業専用道、森林作業道整備の推進や、林道金持秋縄線の開設及び林道宝仏山2号線の供用開始に併せて木材団地を整備し生産コストの軽減を図っていく。また、森林環境譲与税や豊かな森づくり協働税の目的に沿った事業展開を推進していく。		林業の振興は今日の国産材需要の低迷、経営コストの上昇、林業従事者の減少、高齢化等に起因して林業生産活動が全般にわたって停滞し、保育等が適正に実施されていない森林が増加している。このため町、森林組合等の林業事業者、森林所有者等が一体となって計画的に施策の実施を図る。今後は施業集約化への取り組みのなかで、施業基盤となる作業道整備の推進や、林道宝仏山2号線の供用開始に併せて木材団地を整備し生産コストの軽減を図っていく。また、森林環境譲与税や豊かな森づくり協働税の目的に沿った事業展開を推進していく。		
	事業計画(令和3年度～令和7年度)		事業計画(令和3年度～令和7年度)		
(3)計画 17 頁	持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業主体	備考
	2 産業の振興	(3)経営近代化施設 (9)観光又はレクリエーション	略 交流促進施設管理 金持テラスひの管理(駐車場整備) オシドリ観察小屋アクセス歩道整備事業 (10)過疎地域持続的発展特別事業	略 町 町 町 町 略	 略

5. 交通通信系の整備、交通手段の確保
(1) 現状と問題点
20 頁

県・町道においても、年々計画的に道路網の整備をし、日常生活に密着した路線の改良を進め住民生活を安定、向上させてきた。また、冬季間の交通確保のための除雪にあたり、建設業者や地域協力者の減少する中、除雪機械運転手育成支援補助金を活用しオペレーターの育成に努め、効率の良い除雪を行い、住民生活の安定を図っている。また町有の除雪機及び除雪車両車庫は老朽化が進んでいるので更新が必要となっている。

林道に関しては、路網の幹線となる林道、町・森林組合等事業体が支線となる林業専用道・森林作業道を効率的に開設することにより農林業の振興、生産基盤の整備につながった。また広域基幹林道金持秋縄線の新規開設や宝仏山線は現在整備中である。

路線バスは、平成18年から町営バスの運行を開始し、現在町営バス4路線と、米子を往復する路線バス1路線のほか、一部日南町営バス1路線も運行されており、通学や通院、買い物など、地域交通の重要な役割を果たしている。

令和2年度で民間会社によるタクシー運行が終了したことに伴い、町営バスと同じくタクシー事業についても令和3年度より町営化した。公共交通機関の利用が困難な高齢者等に対し、タクシー助成を行っているがこの制度も引き続き継続する。

本町の地形は山地に囲まれており、町道の多くが急傾斜地に沿って配置されている。このため、一部路線が急傾斜地崩壊危険区域等に隣接しており、崩壊発生時には通行の安全性が損なわれるおそれがある。また、土地所有者等による崩壊防止措置の実施が困難又は不適当な箇所も存在し、町道の安定的な維持管理に課題を抱えている。

(2) その他
対策
21 頁

広域基幹林道宝仏山線を整備中であり、早期完成に向けさらに要請し、早期完成に向け努力する。また、金持秋縄線は新規路線として早期着手を目指し、弾力的に予算配分等の調整を図る。

過疎地域における公共交通は、地域住民の重要な交通手段、また観光客など来訪者との交流に資するものであるとともに、日常生活の維持や社会参加の機会の確保に必要であり、通勤・通学や観光・商業な

県・町道においても、年々計画的に道路網の整備をし、日常生活に密着した路線の改良を進め住民生活を安定、向上させてきた。また、冬季間の交通確保のための除雪にあたり、建設業者や地域協力者の減少する中、除雪機械運転手育成支援補助金を活用しオペレーターの育成に努め、効率の良い除雪を行い、住民生活の安定を図っている。また町有の除雪機及び除雪車両車庫は老朽化が進んでいるので更新が必要となっている。

農林道に関しては、広域農道、大規模林業圏開発林道日野・金城線の町道供用開始により農林業の振興、生産基盤の整備につながった。また広域基幹林道宝仏山線は現在整備中である。

路線バスは、平成18年から町営バスの運行を開始し、現在町営バス4路線と、米子を往復する路線バス1路線のほか、一部日南町営バス1路線も運行されており、通学や通院、買い物など、地域交通の重要な役割を果たしている。

令和2年度で民間会社によるタクシー運行が終了したことに伴い、町営バスと同じくタクシー事業についても令和3年度より町営化した。公共交通機関の利用が困難な高齢者等に対し、タクシー助成を行っているがこの制度も引き続き継続する。

広域基幹林道宝仏山線を整備中であり、早期完成に向けさらに要請し、早期完成に向け努力する。

過疎地域における公共交通は、地域住民の重要な交通手段、また観光客など来訪者との交流に資するものであるとともに、日常生活の維持や社会参加の機会の確保に必要であり、通勤・通学や観光・商業な

ど交流が活発な便利で安全なまちづくりをめざす。特に交通手段を持たない高齢者の日常生活や児童・生徒の通学などにとって公共交通手段の維持は切実な課題である。

このため、地域の実状・ニーズに合った生活交通体系の確保に向けて、運転手などの担い手や財源の確保に注力する。また高齢者や介護の必要な人等に対しては、福祉有償運送やタクシー利用者助成など、ニーズに応じた対応を推進する。

鉄道網は、過疎地域にとつて重要な輸送機関としての役割をもっていることから、特急電車の停まる根雨駅をはじめ、町内3駅の維持管理を支援するとともに、高校生への通学費及び特急料金の助成等を行い、一層の利用促進を図るものとする。

町道の安全な通行を確保するため、崩壊のおそれがある急傾斜地に対し、急傾斜地崩壊対策事業を活用し必要な安全対策を講じる。
あわせて、町道沿線の危険箇所の把握及び日常的な点検体制の充実を図り、道路ネットワークの安全性確保と災害に強い地域づくりを推進する。

なお、本事業は日野町地域防災計画及び公共施設等総合管理計画と整合を図りながら実施する。

(3) 計画
21 頁

事業計画(令和3年度～令和7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業主体	備考
4 交通通信体 系の整備、交 通手段の確 保	(1)市町村道 道路	町道下黒坂線道路改良 L=1000.0m W=4.0m	町	
		町道板井原線道路修繕 L=12.0m W=4.0m	町	
		町道本郷線道路修繕 L=20.0m W=3.5m	町	
		町道舟場線道路改良事業 L=300.0m W=4.0m	町	
		急傾斜地崩壊対策事業	町	
橋りょう	橋りょう	堂坂橋	町	
		鍋谷橋	町	
		黒谷3号橋	町	

ど交流が活発な便利で安全なまちづくりをめざす。特に交通手段を持たない高齢者の日常生活や児童・生徒の通学などにとって公共交通手段の維持は切実な課題である。

このため、地域の実状・ニーズに合った生活交通体系の確保に向けて、運転手などの担い手や財源の確保に注力する。また高齢者や介護の必要な人等に対しては、福祉有償運送やタクシー利用者助成など、ニーズに応じた対応を推進する。

鉄道網は、過疎地域にとつて重要な輸送機関としての役割をもっていることから、特急電車の停まる根雨駅をはじめ、町内3駅の維持管理を支援するとともに、高校生への通学費及び特急料金の助成等を行い、一層の利用促進を図るものとする。

事業計画(令和3年度～令和7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業主体	備考
4 交通通信体 系の整備、交 通手段の確 保	(1)市町村道 道路	町道下黒坂線道路改良 L=1000.0m W=4.0m	町	
		町道板井原線道路修繕 L=12.0m W=4.0m	町	
		町道本郷線道路修繕 L=20.0m W=3.5m	町	
		町道舟場線道路改良事業 L=300.0m W=4.0m	町	
		急傾斜地崩壊対策事業	町	
橋りょう	橋りょう	堂坂橋	町	
		鍋谷橋	町	
		黒谷3号橋	町	

